

# 第2回住民のニーズに関する民生委員・児童委員 アンケート調査結果概要



鹿児島県瀬戸内事務所

# 1. アンケートの概要

## 1.実施目的

民生委員・児童委員の方々が日頃の活動により把握されている住民の方々の状況を通じて、瀬戸内事務所管内における住民の支援ニーズを把握し、課題を抱えた方々の支援とその背景にある地域課題の解決に向けた取組を推進する。

## 2.アンケート調査対象者

平成30年度民生委員・児童委員現任研修会出席者

・宇検村10人(全委員の62.5%),瀬戸内町37人(全委員の63.8%)

・瀬戸内町は、チームせとうち“我が事・丸ごと”支え愛事業の一環として昨年度に続き2回目の実施。

## 3.アンケート実施日

平成30年7月25日(研修会当日)

## 4.アンケートの主な内容

(1) 支援が必要と思われる下記①～⑥の世帯・人の数等を調査

① 親の介護と子育てを同時にしている世帯(ダブルケア)

② 高齢の親と、働いていない独身の40～50代の子が同居している世帯(8050問題)

③ 18～20歳の生活支援を必要としている人

④ 障害の疑いがあるが、手帳の申請や病院の受診を拒否していて制度を利用していない人

⑤ ゴミ屋敷に暮らす人

⑥ 家庭内で虐待が起こっていると思われる世帯

⑦ 長期間(6か月以上)ひきこもっている子ども,成人

(2) 支援が必要な世帯を把握した場合の相談先

(3) その他,気になる世帯の状況等

## 2. 支援が必要と思われる世帯の把握状況

### 【 宇検村の傾向 】

- ① ゴミ屋敷とひきこもりの存在を把握している回答者の割合が高い。  
(ゴミ屋敷40%, ひきこもり30%)
- ② 回答者の半数はダブルケアの世帯について未記入(有無を把握していない)。
- ③ 未記入(有無を把握していない)の回答は、ダブルケアと虐待の疑いのみ。  
→その他の問題については、回答者全員がそれらを抱える世帯の有無を把握している。

・ゴミ屋敷, ひきこもりが身近な問題に。

・ダブルケアが潜在化している可能性。

・民生委員が世帯の状況を把握し、問題の潜在化を防止。

宇検村(回答者10名)

	ダブルケア	8050問題	18~20歳 要生活支援	障害疑い	ゴミ屋敷	虐待疑い	ひきこもり
世帯が「ある」	1人	2人	1人	2人	4人	1人	3人
世帯が「ない」	4人	8人	9人	8人	6人	8人	7人
未記入 (有無を把握していない)	5人	0人	0人	0人	0人	1人	0人

## 【 瀬戸内町の傾向 】

① 8050問題, ひきこもりの問題を抱える世帯を把握している回答者の割合が高い。(8050問題24.1%, ひきこもり15.5%)

・8050問題, ひきこもりが身近な問題に。  
・前回アンケートでも, この2項目の割合が高い。

② 回答者の59.4%はダブルケアの世帯について未記入(有無を把握していない)。

・ダブルケアが潜在化している可能性。

③ ダブルケア以外についても, 未記入(有無を把握していない)の割合が多い(10.8%~18.9%)。

・世帯の状況を把握できないまま, 問題が潜在化する可能性。

瀬戸内町(回答者37名)

	ダブルケア	8050問題	18~20歳 要生活支援	障害疑い	ゴミ屋敷	虐待疑い	ひきこもり
世帯が「ある」	2人	14人	0人	7人	6人	3人	9人
世帯が「ない」	13人	18人	31人	23人	27人	27人	21人
未記入 (有無を把握して いない)	22人	5人	6人	7人	4人	7人	7人

### 3. 支援が必要と思われる世帯数

#### 【 宇検村の傾向 】

① 様々な問題の中でも、8050問題、ひきこもり、ゴミ屋敷の問題を抱える世帯が多い。

	困りごとの内容	把握している世帯数 (H30年8月調査時)
宇 検 村	①8050問題	4世帯
	②ゴミ屋敷	4世帯
	③ひきこもり	3世帯
	④障害疑い	2世帯
	⑤ダブルケア	1世帯
	⑥虐待疑い	1世帯
	⑦18～20歳要支援	1世帯
	合 計	16世帯



## 【 瀬戸内町の傾向 】

① 8050問題とひきこもりの問題を抱える世帯が多い。

② 第1回の調査に比べ、把握している問題を抱える世帯数が増加。

8050問題:20世帯増, 障害の疑い:7世帯増

問題を抱える世帯を把握できるようになった。

### 【昨年度からの“我が事・丸ごと”支え愛事業の実施】

- ・ 事業の広報啓発
- ・ 事業の一環として実施した前回調査の回答経験
- ・ 事業の一環として実施した研修会等への参加

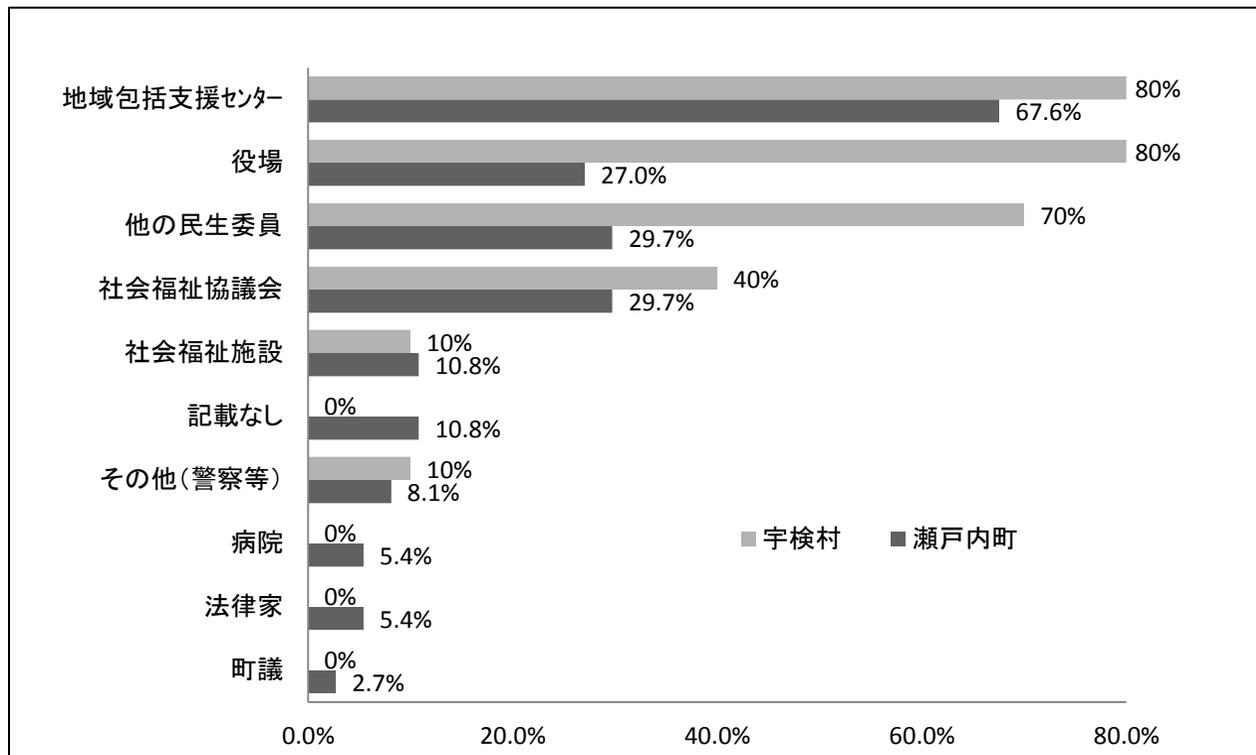
事業実施による意識の向上・知識の習得。

瀬戸内町	困りごとの内容	把握している世帯数 (H30年8月調査時)	把握している世帯数 (前回:H30年1月調査時)
	①8050問題	28世帯	8世帯
②ひきこもり	11世帯	8世帯	
③障害疑い	8世帯	1世帯	
④ゴミ屋敷	6世帯	4世帯	
⑤ダブルケア	6世帯	6世帯	
⑥虐待疑い	3世帯	1世帯	
⑦18~20歳要生活支援	0世帯	(前は調査項目無し)	
合計	62世帯	—	

## 4. 民生委員・児童委員の主な相談先

相談先	回答人数 (複数回答有)	
	宇検村	瀬戸内町
地域包括支援センター	8人	25人
役場	8人	10人
他の民生委員等	7人	11人
社会福祉協議会	4人	11人
社会福祉施設	1人	4人
記載なし	1人	4人
その他(警察等)	0人	4人
病院	1人	3人
法律家	0人	2人
町議	0人	2人

民生委員・児童委員が相談先に挙げた割合



### 【宇検村の傾向】

- ① 回答者の7～8割は地域包括支援センター、役場、他の民生委員に相談している。

### 【瀬戸内町の傾向】

- ① 地域包括支援センターに相談すると回答した者が7割。
- ② それ以外のところに相談する者は少なく、役場、他の民生委員、社協が回答者の3割以下。

## 5. 民生委員・児童委員が「気になる」世帯の概要(宇検村)

### 【民生委員Aさん】

- ・ ノラネコに餌を与えて近隣に迷惑をかけている人がいる。

抱える問題の  
潜在化

### 【民生委員Bさん】

- ・ 障害がある人が、なかなか住民にとけこまず、孤立している。
- ・ 50代の方が、障害はないが、孤立している。訪問できずに困っている。

孤立化  
世帯の状況把握が困難

### 【民生委員Cさん】

- ・ 介護保険で要支援の高齢単身の方は、自宅で最期を迎えたいが、島外に住む家族は施設入所させたい意向。
- ・ 本人は自分でできないことが多く、通帳管理も親族が行っており、(生活に必要な)手続きを自分で行うことが難しい。

高齢者の家族問題、  
生活支援、看取り



## 6. 民生委員・児童委員が「気になる」世帯の概要(瀬戸内町)

### 【民生委員Aさん】

- ・ 精神病院に何十年も入院している人がいる。
- ・ 寝たきりの妻, 100歳近い夫, 50歳代の息子で生活している世帯がある。

世帯の状況把握が困難  
8050問題？

### 【民生委員Bさん】

- ・ 90歳代の女性単身世帯。近所に60代の子がいるものの、耳も遠く地域と交流が全くない。警察が生存確認をしたこともある。新聞配達の方に見守りを依頼している。

地域からの孤立  
関係機関との連携・地域  
の見守りの必要性

### 【民生委員Cさん】

- ・ 4月に民生委員になったばかりで、地区の人たちの把握ができていない。世帯表がほしい。

世帯の状況把握が困難

### 【民生委員Dさん】

- ・ 60代の母親と30代の子。親子の対話が全くない状況。母親は全く外出していないというが、子は買い物に出かけている。  
来客に神経質になっている。

親子関係

### 【民生委員Eさん】

- ・ 60歳代男性。足が不自由で一人暮らし。弁当配達を取っている様子である。

孤立化  
生活支援の必要性

### 【民生委員Fさん】

- ・ 精神障害が疑われる男性の面接ができなため、警察に相談を行った。

障害の可能性  
関係機関との連携の必要性

### 【民生委員Gさん】

- ・ 2~3か月間ひきこもっている人がいる。

ひきこもり

## 7. アンケートやこれまでの取組から見えてきたこと(瀬戸内町)

### ■支援ニーズの把握

- ① 民生委員の活動を通じて住民の困り事が把握され、その世帯の支援につながっている。
- ② 一方、地縁の希薄化や「個人情報」が障害となるなどにより、世帯の状況が把握できず、問題が潜在化している世帯がある。
- ③ “我が事・丸ごと”の取組や研修会・学習会の開催等により、民生委員・児童委員など地域の支援的立場にある方々の問題を抱える世帯に対する理解が進み、発見・把握する世帯が増えている。

### ■支援の実施

- ① 地域から孤立化している世帯や外部との関わりを拒否している世帯は、世帯の状況を把握することが困難。また、問題を把握しても支援につなげることが困難。
- ② 活用できる公的支援制度がなくて(「制度の狭間」)支援につながらないことがないように、多様で柔軟な支援サービスの創出や多分野・多機関の連携が必要。

### ■ひきこもり

- ① 孤立化や支援の拒否などにより、ひきこもりの問題が潜在化したり、支援が困難な世帯はあるが、民生委員等が状況を把握する世帯が増えた。
- ② 周囲の理解による声かけや見守り、就労や就労訓練の機会を提供することで、ひきこもりから抜け出た者もいる。家族の協力と関係者の連携による、一人ひとりの状況の応じた寄り添った支援が必要。

民生委員・児童委員の皆様、ご協力ありがとうございました。